21世紀の地球社会に向けて あなたは何を志しますか？

1997年度 第IV期生 募集要項

■主催
東和大学国際教育研究所
NGO活動推進センター(JANIC)
東京YMCA国際奉仕センター
■協力
アジア学院
開発教育協議会
アカデミア・ナッツ
■会場
東京YMCA国際奉仕センター

地球市民アカデミア

国際協力・国際教育リーダー「地球市民」塾

第IV期テーマ：「サスティナビリティ～持続可能な社会と地域に生きる私たち」

●募集要項●

自分自身が持つ課題を見つめ直し深めていくことは、「これから」をどう生きていくか、あなた自身の「生き方」を問い直していくことです。
ともに「地球市民」として生きていくことを学びましょう。

開催期間
1997年4月～1998年2月
（全20回・合宿3回を含みます）

募集対象
①将来、国際協力や国際教育の分野で活動したいという意欲を持つ人。
②原則として全回参加できる人。
③18歳以上の人。
④他の受講生と協力しながら受講できる人。

参加費用
38,000円（税別）
（費用には登録費、受講料、3回の合宿費用、資料代などが含まれます。）

定員
45名
（書類による選考をさせていただきます。）

募集締切
3月10日消書類必着

申込方法
指定の申し込み用紙を記入の上、裏面に「私の考えるこれからの国際協力（または国際教育）」「地球市民とは？」「持続可能な地球社会とは？」というテーマの中から1つを選んで作文を書き、下記にお送り下さい。合否結果及び参加費用の納入については申込後別途ご案内致します。

会場案内図

●JR　神田駅 出口［東口、北口］
　　お茶の水駅 出口［聖橋口］
●地下鉄　丸の内線 淡路町駅 出口［A-2・A-4］
　　千代田線 新お茶の水駅 出口［B-6］
　　都営新宿線 小川町駅 出口［A-6］
　　銀座線 神田駅 出口［北口］

お申し込み・お問い合わせ
「地球市民アカデミア」事務局
〒101 東京都千代田区神田美土代町7 東京YMCA国際奉仕センター内
TEL:03-3293-7011　FAX:03-3293-7014

主催団体紹介
「地球市民アカデミア」はこれら3団体の主催です。

東和大学国際教育研究所
東和大学国際教育研究所は、国際問題や地球的諸問題への洞察力と判断力を有する地球市民の養成に関する研究と実践を機軸にすえています。また、国際協力や国際教育の調査研究にも取り組んでいます。大学附置の研究所ではありますが、講座や研究会への参加、資料の閲覧、研究紀要への投稿等できるだけ市民に開かれた研究所を目指しています。

NGO活動推進センター(JANIC)
地球社会が直面する開発・環境・人権などの人類共通の課題に取り組む市民組織（NGO）の活動支援を目的に1987年に設立。主な活動は、NGO間のネットワーキングやNGO活動に関する情報の収集及び提供、広報・調査研究、人材育成などをはじめ、海外NGOとの情報交換及び協力関係の促進などです。

東京YMCA国際奉仕センター
YMCAは「青少年の健全育成」「豊かな地球社会の形成」そして「平和な世界の実現」をめざしている青少年団体・社会教育団体です。国際奉仕センターでは、バングラデシュYMCA、アメリカ・フロストバレーYMCA、中国・北京YMCAとの協力関係を通して、青少年の国際理解を高め、交流・協力活動を行うことなどを目指しています。

協力団体紹介
様々な団体の協力を得ながら、広いネットワークの中で「地球市民アカデミア」は進められています。

アジア学院
アジア学院は、アジア・アフリカ諸国から来た研修生が、農村地域社会の人々の生活向上と安定のために献身しようと、食糧の生産の基本、農村生活改善、そしてよりよいコミュニティづくりを生活体験を通して学んでいく、農村指導者専門学校です。

開発教育協議会
開発教育協議会は、日本における開発教育の推進を目的として1982年に結成された民間の連合体組織です。各地で取り組まれている開発教育をネットワークし、必要な情報を伝達し、その試みや働きを側面から支援することを役割としています。機関誌やニュースレターの発行、情報センターの設置、全国研究集会、ワークショップ、地域セミナーなどの開催を行っています。

アカデミア・ナッツ
ナッツは「結び目」という意味です。地球市民アカデミアの修了生たちが、それぞれの違った道を歩きながらも、その結び付きを続けていこうと組織されたグループです。主な活動としては、ニュースレターの発行、共働学習に基づいた学習教材（「食べ物から世界が見える」等）の開発、地球市民アカデミアの活動支援などです。

＊デザイン協力：H. Yoshino
表紙写真協力：東京YMCA全国高校生デザインコンクール入賞作品
河井もき製作作品

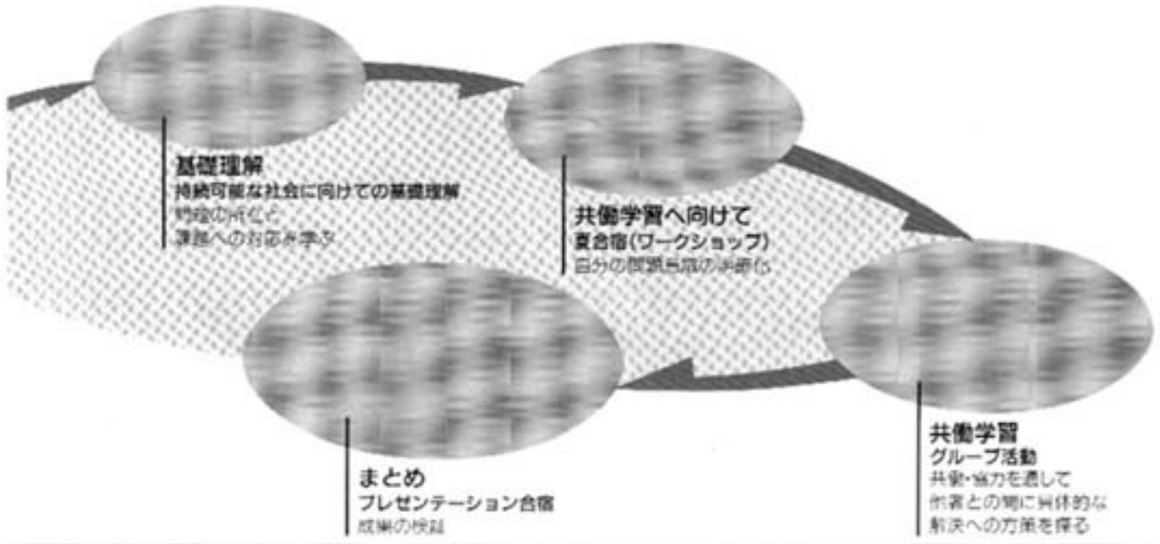
「地球市民アカデミア」はこうして生まれました！

高まる地球環境への危機感、貧富の格差の拡大、民族紛争の激化など、世界をめぐる状況はますます深刻化しています。
国際協力、国際貢献への関心の高まりとともに、そうした分野での活動を志す人たちもますます増えてきました。
「地球市民アカデミア」はそのような人々の新しい学びの場です。

共働学習を通じた新しい学びの場を求めて
従来、講座というと座って講義を受けるというイメージがありました。しかし、実際に国際協力、国際教育を実践していくには、知識や情報をただ身にまとうだけでなく、それらをメッセージやアクションに変えていくことが必要です。そのためには、実体験や試行錯誤を通じて受講者同士が互いに学び合う場が必要となります。「地球市民アカデミア」は、そんな今までにない新しい学びの場をめざしています。

21世紀の地球社会に求められる人間像を求めて
第三世界への「援助」に対する様々な意見からも分かるように、異なった社会状況の中、厳しい条件の下に生きる人々と共に生きようとすることは、学問の枠におさまりきるものではありません。21世紀の地球社会に求められるのは、いわゆる開発途上と言われる国々に生きる人々を、援助や研究の対象として見るのではなく、同時代を共に生きる人間として理解し合い、共感できる力と感性を持った地球市民なのです。

「地球市民アカデミア」のゴール
この講座が目指すものは、将来国際分野での活動を志す者が、現在の社会状況を正しく理解し、自分自身が社会のために何ができるかを考えることを通して、自分自身の価値感を問い直し、意識の変容を促していくことです。必要な専門知識や他の見方を学ぶと同時に、国際協力や国際教育に携わる人々の経験に学び、実際にNGOなどを訪問して、現実感ある国際協力・国際教育を学びたいと思います。あなた自身がなぜ国際協力や国際教育が必要であるかを考え、どう関わりたいのか、また何ができるのかを深く掘り下げることをめざします。さらに、これからの社会を創っていく上で大切な、他者との協力関係の築き方を共に学びます。



1年間のカリキュラム / 年間テーマ：「サスティナビリティ～持続可能な社会と地域に生きる私たち」

第4期地球市民アカデミアは、「サスティナビリティ」をキーワードに実施します。
この言葉は1992年の地球サミットに際、開発・環境の分野での討議に盛る頻繁に登場する言葉です。
DEVELOPMENT(開発)やUSE(利用)と対比して使われることの多いこの言葉に、
文化・経済・政治・教育・思想思いった様々な環境と市民の参加という概念を絡ませながら、
「地球市民社会」という植物を参加者全員で編み上げていきたいと思います。
3回の合宿を通じて、受講生相互の考え方、
価値観、学びを共有します。基礎理解では、
広い視野から世界の諸課題を「見る眼」を養います。
そしていよいよ「共働学習」を通じて、
あなた自身の課題、テーマを深めていきます。

＊受講日はいずれも金曜日午後6時30分～日曜日20時
です。（○☆は祝）

4 5.23　講師：松下和夫氏　磯田厚子氏
持続可能な開発と国際協力
―持続可能な開発を進めていくために、米国、ヨーロッパ諸国などでどのような国際協力が行われているのか。国際協力機構（JICA）・NGO活動・企業における環境問題などの事例を通して学んでいきます。それぞれの立場の実践者を迎えて対話をする予定です。

8 7.18　講師：山本俊一郎氏　早乙女雅一郎氏
サスティナビリティのための教育
サスティナビリティとは、地球に問題とされる「世代内公正」の実現と、未来世代の資源・環境権を尊重する「世代間公正」の二重の問題です。それぞれのテーマに沿った形で市民参加型の環境教育と開発教育を通じて、サスティナビリティのための知恵と技術を学ぶ予定です。

12～16 10.3・10.17・10.31・11.14・11.28
共働学習1～5
グループでの学びを通じて
グループごとに自分たちで、具体的な行動の計画をたてます。NGOや国際機関を通じての学び、あるいは会社などグループ単位の学習が展開されます。

地球市民アカデミアのリーダーたち（敬称略）

校長
高見　敏弘　アジア学院校長・NGO活動推進センター顧問

講師・アドバイザー
大橋　正明　東京女子学園大学教授
小松　光　お茶の水女子大学博士後期課程／アジア学院・国際教育センター
寺西　俊一　一橋大学教授
中村　尚司　龍谷大学教授
原子栄一郎　アジア学院人材育成部部長・国際教育センター
松下　和夫　滋賀県琵琶湖研究所所長・国際環境センター理事
柳田　耕一　ディエラ総合研究所代表
磯田　厚子　こくみん共済ボランティアセンター

企画・運営委員
赤石　和則　東和大学国際教育研究所
磯野　昌子　東和大学国際教育研究所
伊藤　道雄　NGO活動推進センター
上田　香子　東和大学国際教育研究所
上林　直美　東京YMCA国際奉仕センター
桜井　高志　桜井・浦野グループ代表・前開発教育協議会
谷尾　響子　東京YMCA国際奉仕センター
鮫　清忠　東京YMCA国際奉仕センター
奈良　昭彦　東京YMCA国際奉仕センター
福澤　郁文　シャプラニール事務局・国際協力市民センター
山本　俊正　日本キリスト教協議会
山西　優二　聖学院大学教授・開発教育協議会
渡本　清之　開発教育協議会

1年間のカリキュラム

1 4.11金～13日
アジア学院オリエンテーション合宿
～共に生きるために～
「国際協力とは？国際教育とは？」そう問える前に、アジア学院の「流れ」に身を任せてみましょう。土地柄や人に触れることに重点を置く「アジア」を出会い、「アジア」を発見することでしょう。はじめの合宿では、アジア学院に体験入学し、農作業等の体験を共有しながら、本アカデミアでのあなたの課題や方向性を探ります。

2 4.25
合宿を終えて～これからの1年間を見据えて
アカデミアの出発点としてのアジア学院での体験と仲間との出会いを振り返ります。そして具体的な講座を通しての学び始めるにあたり、一人一人の目標と、「サスティナビリティ」というテーマに対しての理解を深めるための時間になります。

3 5.16　講師：寺西俊一氏
アジアの開発の光と陰
～東アジアの経済発展の現実を問う～
近年、アジアに急速に押し寄せている「開発」の波。しかし、その陰で犠牲となり社会問題化などの問題をはらんでいる状況があります。韓国や中国などの東アジアで出し社会発展の状況を、日本の現在の状況とも比べながら検討し、何かを新たな環境や社会のあり方を問題提起したいと思います。

5 6.6　講師：中村尚司氏
持続可能な社会と地域に生きる私たち
「東アジアの奇跡」という見方をする場合から、開発途上国問題だけでなく、環境、人権、平和にとどまらず国際的にもとらえ、私たちが社会を「持続可能な社会」とはどのような状況かということについて考えます。

6 6.20　講師：柳田耕一氏
地域社会の再生と自立
～「水俣」の過去・現在・未来から学ぶ～
豊かで安全な生活を約束した近代工業化の陰の部分ともいえる「水俣病」。そして、水俣病を発生させた社会構造が現代でも生かされている人間中心のやり方です。水俣病患者の人々の、疑問と人間・人と人間関係の見直しの視点から、地域と地球の持続可能な生活について考えています。

7 7.4　講師：小松光一氏
未来世代に手渡す農業
世界人口に対する食料を何かは問われるべき。農村者不足に悩む今日の日本の農業は、どのような解決策があるのでしょうか。「WTO体制と農業問題」「都市と農村」「生産者と消費者」などをテーマに取り上げながら、この問題と未来を考えていきます。

9 7.26土～27日
夏合宿
前半の1年間を終え、それぞれのことを振り返り、ワークショップを通して、共働作業のテーマを深めていきます。後半の合宿は共働作業へのヒントとなるフィールドワークについて学びます。

10 9.12
特別企画
公開シンポジウム
アカデミアのテーマに沿った内容で講演、パネルディスカッション等を行ないます。受講生及び他の方を対象としています。

11 9.19
共働学習グループ決定
「グループ」という場での学びを通して人と人とが結びつきることの意味を理解し、自分自身のテーマを明確にした上で、グループごとのテーマを決定、共働作業に入ります。各グループにはスタッフ・アドバイザーが一人ずつ参加し、活動をサポートします。

17 12.12
実践に向けて
アカデミアの「核心」！半期（9～12月）を終了した後の「あなた」の行動や考え方が問われます。アカデミア以後の「あなた」について、受講生同士で話し、アカデミア後の「共働」について深めてゆきます。

18～19 1.16・1.23
共働学習6～7
グループでの学びを通して
共働作業に入り、プレゼンテーションに向けて成果にまとめてゆくための20%へと近づきます。

20 1.31土～2.1日
プレゼンテーション合宿
明日から行動するために
今のあなたは、1年前のあなた。「何」変わったのでしょうか。今までの「あなた」はどうあるべきか、きっとそこにあるでしょう。あなたにとっての原動力、目的、動機。その新たな発見が次なるステップかもしれません。最終日は1泊2日の合宿を行います。「6ヶ月間にわたる学びやグループ作業の成果を発表し、それを明日からの行動へつなげたいと思います。